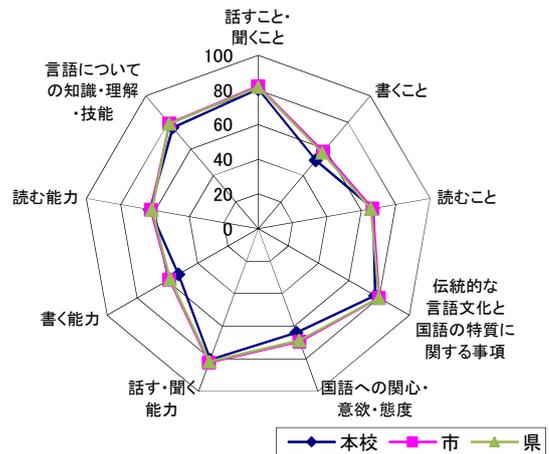


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.5	82.3	81.8
	書くこと	51.4	58.0	57.2
	読むこと	66.9	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.4	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	64.0	69.4	68.8
	話す・聞く能力	80.5	82.3	81.8
	書く能力	52.7	58.8	58.1
	読む能力	63.0	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	76.1	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

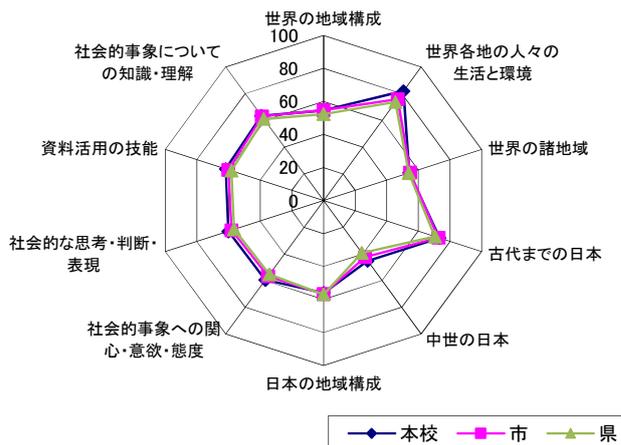
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる問題では、県の正答率を上回っている。 ●司会者の工夫を聞き取る問題では、正答率が県の正答率を3.5ポイント下回っている。	・授業の中で、発表やスピーチをし、互いに評価する活動を取り入れ、話の聞き方や、話し方の工夫を身につけさせる。
書くこと	○意見をもとに、伝えたいことを明確にして書く問題では、県の正答率を6ポイント以上上回っている。 ●書くことの問題の正答率が、県・市平均から5ポイント以上低い。 ●作文を書く問題における4つの観点のうち3つが、県の正答率を6ポイント～13ポイント下回っている。	・書くことに対して苦手意識があるため、特別活動などの体験談が豊富にあるものを題材に作文を書く活動を取り入れ、書くことへの抵抗感を減らす。 ・単元の最後にはまとめの感想を書く時間を取り入れる。
読むこと	○文学作品の内容を読み取る問題では、3問すべて県の正答率を上回っている。 ●文章の構成を捉える問題では、県の正答率を4ポイント以上下回っている。	・説明的文章における、文章の構成や展開について詳しく説明する。 ・段落ごとに要約しながら読んでいくことができるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○故事成語に関する問題では、正答率が県の正答率を上回っている。 ●文法・語句に関する知識の問題では、4問中3問が県の正答率を下回っている。	・語句に関する知識が定着していないため、教材に出てきた語句などの意味調べをする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	54.6	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	82.0	75.9	73.7
	世界の諸地域	54.2	54.8	53.9
	古代までの日本	73.4	72.7	70.5
	中世の日本	45.3	42.4	39.3
	日本の地域構成	56.0	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	59.5	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	60.2	58.1	56.4
	資料活用スキル	61.8	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	63.5	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

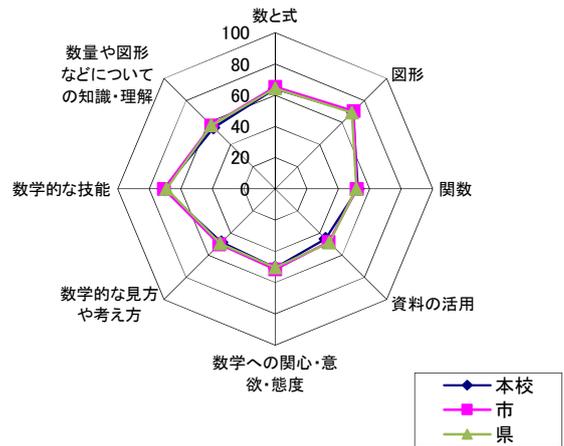
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<p>○平均正答率は県の平均を2.3ポイント上回り、市の平均とほぼ同じであった。</p> <p>○モルワイデ図法の特徴を把握しているか問う問題の正答率は、県の平均を6.5ポイント、市の平均を2.5ポイント上回った。</p> <p>●正距方位図法の地図から大陸の位置を読み取る問題の正答率は、市の平均を3.4ポイント下回った。</p>	<p>・地球儀や様々な地図の実物を用いて授業を行い、それぞれの地図で正しくあらわされる点、正しくあらわすことができない点、それぞれの地図はどのような目的で使われるのかなどを生徒に考察させ、理解させていきたい。</p>
世界各地の人々の生活と環境	<p>○平均正答率は県の平均を8.3ポイント上回り、市の平均を6.1ポイント上回った。</p> <p>○複数の資料から冷帯の人々の生活の特徴を考える問題の正答率は、県の平均を11.8ポイント、市の平均を10.5ポイントと、それぞれを大きく上回った。</p>	<p>・各気候帯の特徴について正しく理解している生徒が多い。写真資料を用いた学習やタブレットでの調べ学習を通して遠くの地域のことをより理解させていきたい。</p> <p>・複数の資料を組み合わせ考察する問題は県立高校入試にも頻出なため、定期テストなどで出題し、考察の方法などについて理解させていく。</p>
世界の諸地域	<p>○北アメリカ州の地形について問う問題の正答率は、県の平均を1.8ポイント、市の平均を2.8ポイント上回った。</p> <p>●モノカルチャー経済の問題点について表現する問題の正答率は、県・市の平均をそれぞれ上回ったが、校内の正答率は35.9ポイントと低い数値であった。</p> <p>●オーストラリアの貿易国についての問題の正答率は、県を3.1ポイント、市を6.4ポイント下回った。</p>	<p>・自身の言葉で表現することが苦手な生徒が多いため、テストだけでなく、授業の導入の発問や、まとめの際に自身の言葉で書いて表現することを繰り返し行わせる。</p> <p>・オーストラリアの貿易国は、オーストラリアの歴史とも深く関連しており、その問題の正答率が低かったため、地理と歴史のつながりを考えさせる活動に取り組みさせていく。</p>
古代までの日本	<p>○奈良時代の人々の負担について考察する問題の正答率は、県を15.3ポイント、市を12.5ポイント上回った。</p> <p>●古代文明のおこりについて問う問題の正答率は、県を0.8ポイント、市を3.5ポイント下回った。</p> <p>●国風文化の作品を問う問題の正答率は、県を6.5ポイント、市を8.3ポイント下回った。</p>	<p>・1年生の初めに学習した分野の知識の定着が不十分なため、復習の小テストなどを定期的に行っていく。</p> <p>・日本の歴史の中で誕生してきた文化について、それぞれの発生した背景や、文化の特色、代表作品などについてまとめる活動を行い知識の定着を図る。</p>
中世の日本	<p>○平均正答率は県の平均を6.0ポイント上回り、市の平均を2.9ポイント上回った。</p> <p>○執権政治の理解を問う問題の正答率は、県を16.1ポイント、市を8.2ポイントと、それぞれを大きく上回った。</p> <p>○分国法の目的を考える問題の正答率は、県を9.0ポイント、市を5.9ポイント上回った。</p>	<p>・平安時代・鎌倉時代・江戸時代・明治時代など、それぞれの時代の権力者たちが、どのような政策を行い、どのように日本を支配してきたのかを理解させていきたい。</p>
日本の地域構成	<p>●平均正答率は県の平均を0.9ポイント、市の平均を0.7ポイント下回った。</p> <p>○日本の領土に関する問題の正答率は、県を1.2ポイント、市を1.6ポイント上回った。</p> <p>●排他的経済水域について問う問題の正答率は、県を5.1ポイント、市を3.5ポイント下回った。</p>	<p>・日本を取り巻く領土問題については、歴史的な背景や、領土が減ってしまうことによる影響、他国との関係性など様々な観点から考えさせていきたい。</p>

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	64.2	65.4	64.4
	図形	69.7	70.5	69.0
	関数	52.4	51.9	51.5
	資料の活用	45.3	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	50.4	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	48.4	50.2	49.4
	数学的な技能	70.9	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	55.5	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

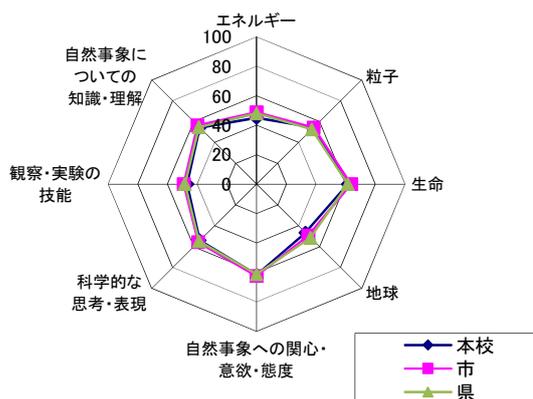
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○負の数の減法や乗法の計算問題や比例式を解く問題は、県平均を上回っている。 ●与えられた文章を1次方程式を解いて解決する問題において、県平均を下回っている。	・基本的な計算方法の定着が見られる。継続的に反復学習を行い、符号や計算ミスに注意を払いながら計算する習慣を身に付けさせたい。 ・文章を読み、意味を理解させ、文字を使った式や方程式を立てる練習を行いたい。
図形	○三角形の高さを表す線分の作図や平面図形を回転させてできる立体の問題は、県平均を大きく上回っている。 ●底面積と高さが等しい円錐と円柱の体積の関係において、県平均を下回っている。	・図形分野は、実際に図形を移動させたり、角度を測ったり、体験的な学習を通して理解につなげていきたい。 ・図を丁寧に書かせるなど活動をたくさん取り入れ、図形に関する様々な知識の理解を深めさせたい。面積や体積の求め方を理解させ、公式を確認し、繰り返し練習問題に取り組ませていきたい。
関数	○比例の関係を表す式から、比例のグラフを書く問題においては、県平均を上回っている。 ●関数についての理解の問題では、特に県平均より低く、20.1%にとどまっている。	・関数についての理解が不十分である。文章から2つの数量関係を見出し判断する力を身につけさせるために、2年の1次関数の分野でもこれまでの既習内容との関連を確認しながら指導していきたい。
資料の活用	○目標が達成できたかどうかを判断するために着目する値を選ぶ問題は、県平均を上回っている。 ●資料の活用の問題においては、全体的に県平均を下回っている。	・資料の活用における知識・理解、技能、そして考え方は、他教科や総合的な学習の時間などでも活用できるように、機会を設け、学習したことが生きる場面を多く設定していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	45.0	48.8	48.1
	粒子	54.4	54.4	52.6
	生命	61.4	63.7	61.5
	地球	46.5	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.5	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	54.0	55.7	54.8
	観察・実験の技能	46.7	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	54.1	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○音が空気の振動で伝わることは約77%の生徒が知識として身に付いていた。</p> <p>●ばねに加える力の大きさとばねののびの数値のグラフ化や光の進み方の作図はかなり正答率が低く、実験結果の処理に課題がみられた。</p>	<p>・実験で得たデータの処理の方法や考察のヒントなどを丁寧に指導し、生徒が自ら作業することで、グラフの書き方や作図のしかたを身につけることができるように実験の進め方を工夫する。</p> <p>・表、グラフ、計算などでchromebookを活用するなど、関心をもってデータの処理を学べるように授業の改善を図る。</p>
粒子	<p>○正答率は県・市とほぼ同程度であった。</p> <p>●密度の計算はできるが、不定形の物体の体積をメスシリンダーで測るとき、計算に使う数値をどのように扱えばよいか考えるのが難しい。</p> <p>●質量パーセント濃度を求めるときにどの数値を用いるか、またどのように計算すればよいか考えるのが難しい。</p>	<p>・密度や質量パーセント濃度を求めるにはどのような数値が必要か考えたり、式の意味を考えたりする時間をとり、理解し、活用できるように授業の工夫をする。</p> <p>・実験後のまとめ、考察の時間に重点を置き、実験の結果をもとに身近なものに活用する機会を授業を中心につくっていく。</p>
生命	<p>○他の領域に比べて正答率が高い。</p> <p>●「花粉のできる場所」「軟体動物」の正答率が県・市を比べて低い。知識の習得が不十分であった。</p> <p>●授業で学習した植物の葉の形とアイビーの葉の形が異なるだけで比較・判断ができなかった。</p>	<p>・他の領域に比べて知識が多いが、思い込みで答えることが多い領域でもある。</p> <p>・共通性については知識の定着が見られるが、多様性についてはもっと多くの生物を観察したり、映像を視聴したりして知識の幅を広げる必要がある。</p>
地球	<p>●県・市の平均正答率よりやや低い。</p> <p>●「石基」「堆積岩」という基本的な用語を問う問題で無解答、誤解答が約65%前後見られた。</p> <p>●堆積岩についての大問では正答率が約20%と極めて低かったことから、基礎的な知識が定着していないと思われる。</p>	<p>・観察や映像の視聴などを積極的に取り入れ、関心をもって学習が進められるように授業の改善を行う。</p>

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	76.2	74.4	73.5
	読むこと	57.4	58.7	56.9
	書くこと	49.1	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	63.5	61.0	59.4
	外国語表現の能力	46.1	43.5	41.1
	外国語理解の能力	64.2	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	61.7	62.9	60.2

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○平均正答率が市や県の平均値を上回っている。</p> <p>○いつ、どこで、だれが、何を、どうするといったことの聞き取りができています。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、資料をもとに答えることが苦手である。</p>	<p>○日々の授業の中で英語を使用する場面を多く設定し、インプット量を増やしていく。</p> <p>●聞いて相手に自分のことを伝え合うような授業展開をより多く行っていく。</p> <p>●ALTとのTTの授業を実施していきながら、先生同士の英語の会話(ティーチャーズトーク)を増やし、聞くことへの関心や慣れを育てていく。</p>
読むこと	<p>○平均正答率が市や県の平均値を上回っている。</p> <p>●英文の中で代名詞が何を示しているのかが読み取れていない生徒が多く見られる。</p> <p>●現在進行形の疑問文や助動詞canを用いた疑問文の語形・語法への理解が不十分である。</p> <p>●英文の読み書きや話の要点をとらえることを苦手としている生徒が多くみられる。</p>	<p>○読む活動では、誰が、どこで、どのように、何をするかなどを整理できるような発問をしていく。</p> <p>●短い簡単な英文にたくさん触れさせていく。</p> <p>●thereやthem、itなどといった代名詞を用いた文を読む際には、代名詞が指し示すものを理解できるような授業の工夫をしていく。</p>
書くこと	<p>○平均正答率が市や県の平均値を上回っている。</p> <p>○対話の流れに合った英文を書いたり、与えられた情報に基づいて英文を書いたりすることは市や県の平均を上回っている。</p> <p>●疑問文や否定文の書き換えや並び替え問題において課題が見られる。</p>	<p>○相手意識をもって、自分のことや考え、気持ちなどを表現していく活動を取り入れていく。</p> <p>●疑問詞や助動詞を用いた書き換えや並び替え問題に取り組ませていく。</p>

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている。」という質問に対し、県や市の平均と比較して肯定的な解答が多かった。与えられた学習課題において、きちんと取り組んでいる生徒が多いことが分かる。今後は自主的に学習に取り組んだり、自ら調べて理解を深めたりなどできるよう、発展的な内容や実生活との関わりについて触れ、学習に興味をもてるよう工夫していく。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問に対し、県や市の平均と比較して肯定的な解答が多かった。道徳の授業をはじめ、各授業において、相手の意見を尊重する姿勢が生徒に根付ききている。今後も、互いを認め合いながらも、自分の意見を伝える活動を通して、たくさんの価値観や考えに触れ、豊かな心の育成に力を入れていきたい。

●「家で、画工や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」という質問に対し、県や市の平均と比較して肯定的な解答が低かった。学習が受動的にならないよう、学習方法の指導を図る。また、進路への関心を高くすることで学習への意欲をもたせられるよう指導していく。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」や、「学校の宿題は、自分のためになっている。」という質問に対し、県や市の平均と比較して肯定的な解答が低かった。学習内容の有用性について指導し、さらに興味・関心が引き出せるような課題や発問方法を考えていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着化を図る。 ・学習計画を立てて学習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ノートの提出。 ・テスト前の学習計画表の作成。 ・学習の振り返りや、テスト直しの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で計画を立てて勉強している」という質問に対し、市や県の平均を上回っている。 ・「テストで間違えた問題について勉強をしている」という質問に対し、市や県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを学習に活用する回答が、市や県の平均と比較して数ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でパソコンを利用する機会を増やす。 ・パソコンを扱う技術の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習など、情報収集やまとめ作業でパソコンを利用する。また、その際に使い方等の指導を行う。 ・問題演習等をパソコンのソフトを使って行い、家庭でも学習に取り組みやすいようにする。